札幌市幼稚園新規採用教員研修

札私幼

発　行
一般社団法人
札幌市私立幼稚園連合会
札幌市西区宮の沢１条１
札幌市生涯学習総合センター内
TEL011-671-3590
FAX011-671-3591
http://www.s-youchien.or.jp/
info@s-youchien.or.jp

平成２４年７月３０日～８月１日の２泊３日札幌市青少年山の家で札幌市幼稚園新規採用教員研修宿泊研修が行われました。参加者は１４７名と近年では多い人数での宿泊研修となりました。

１日目日程（７月３０日）

９時３０分より　ちえりあ体育室にて、幼児教育センター松田課長・札私幼前田会長より御挨拶をいただき開講式が行われました。受講者は、１２の班、１班１１人～１２人の班で編成されました。早速、自己紹介・班長と研修係りを決め札幌市青少年山の家へバス移動をしました。

青少年山の家に到着後、多目的ホールにて館長より御挨拶と職員紹介をしていただき、入館式を行いました。札私幼から山王幼稚園・山田ひとみ教諭より受講者代表の挨拶を述べ青少年山の家での研修生活が始まりました。昼食をとり、体験発表「二年目の先生から」ということで桜台いちい幼稚園　鍋倉教　先生とつみき幼稚園　小山有香　先生を講師とし研究委員より芝木副委員長、大谷委員がコーディネーターとなり１年目の先生にとって励みとなる講演を行っていただきました。

同じく多目的ホールにて講義「教師の心構え」を丸谷担当副会長・藪研究委員長によって行われ一日目の日程を終えました。

２日目日程（７月３１日）

６時３０分の起床で一日が始まり、毎朝行われる朝の集い（挨拶・体操・前日の感想と反省・日程の確認）で必要事項を確認後、幼児教育センター笹山先生による講義・実習「自然観察」が行われました。

午後からは、幼児教育センター工藤先生により講義・実技「生活を豊かにする自然とのかかわり」が行われました。そして、この日の夕食は、実習「野外炊飯」をくわの実広場にて行いました。受講者は自分達で炭をおこし、準備から片付けまでと役割分担をしてジンギスカンを楽しみました。

野外炊飯後、多目的ホールにて班全体交流が行われ各班が少ない休憩時間や自由行動を利用して打合せ練習を行い、保育で使える遊びをテーマに発表をしました。

３日目日程（８月１日）
この日は、最終日ということで午前中は、部屋の清掃を行い、多目的ホールにて元アナウンサーの石橋宜子先生による実技「応対のマナー」が行われました。

午後からは、野外教育専門員の秋田谷先生による講義「幼児期の自然体験について」を行いました。

その後は、研修のまとめを行い、多目的ホールにて幼児教育センター松田課長・札私幼前田会長のご挨拶をいただき、閉講式を行いました。山の家館長より御挨拶をいただいた後、受講生代表として西岡ふたば幼稚園横山薫教諭よりお礼の挨拶を述べ閉講式を終えました。

宿泊研修を終えて

受講者から４名「宿泊研修を終えて」の感想をご寄稿いただきましたので、ご紹介させていただきます。（順不同）

札幌あかしや幼稚園　　野村　香織

７月３０日から８月１日までの３日間、新人研修に参加させていただきました。

研修前は期待より不安でいっぱいの心境でしたが、明るく温かい６班メンバーとの３日間はあっという間に過ぎ、充実した楽しい思い出とともに、環境は違えど同じ立場に立ち頑張っているたくさんの仲間の姿に刺激を受け、自身の励みになりました。

私がこの研修に参加し学んだことの一つに、“きっかけづくりの大切さ”がありました。

まだ互いにぎこちなさが残っていた研修初日の夜、翌日の班交流会の出し物の話し合いの中で、メンバーの「よさこいを踊ろう！」の一言から狭い室内でたくさん汗をかきながら練習し、限られた自由時間の中で互いに振りを確認したり、画用紙で色違いのリストバンドを作る中で、皆の距離がどんどん近づいていったのを感じました。班交流会の際、皆で円陣を組み、気合を入れてよさこいを踊り終わった後は達成感・充実感をともに味わうことができ素敵な経験となりました。

私達６班の場合はよさこいでしたが、実際の園生活の中で子ども達の興味や関心を捉え、同じ興味を持つ子達の仲立ちとなれるよう援助をしたり、行事や日々の生活の中で共同作業（例えば大きな画用紙に皆で一つの絵を書いたりちぎり絵を作成する等）をたくさん見つけ行い、より子ども達の仲を深めるきっかけを作っていきたいと思いました。

また、研修の中で、仲間達以外にも素敵な出会いがありました。２日目の自然観察中に偶然見つけたクワガタとの出会いです。“ろっぱん”と班名にちなんだ名前を付け、移動中は長く大きな枝を見つけそれに■まってもらい、自然観察中に集めた葉・石・木材を使い、ろっぱんの家を作りました。木を集めて麻紐で結び床や支柱を作って葉を敷き、木の実で目を作り葉で羽を作ったトンボ・チョウチョを乗せ家づくりを楽しむ中で、改めて命の大切さや尊さを感じることができました。

余談となりますが、ろっぱんは山の家で預かって頂くことになり、研修後に６班のメンバーで集まり食事をした中で、「ろっぱん元気にしているかな。」と皆で親心を覗かせていました。

そして今回研修に参加し、自然に対するイメージが変わっていきました。研修前は自然＝さわやか・優しい・リフレッシュできるといったイメージが強かったのですが、弱った毛虫を蟻の大群が運んで行ったり、青虫を蟻が囲み戦っている姿を見て、自然は優しいだけでなく厳しい一面を持っているのだと実感しました。柔らかな日差しに頬をなでる優しい風、まるで微笑んでいるかのような天気がものの数十分で豹変し、雲が太陽を覆うとたちまち辺りが暗くなり、ぽつぽつと子どもたちの涙の様な雨粒を私達に落としていく。山の天気は変わりやすいといいますが、そのような変化を肌で感じることもできました。

緑が減り、時間に追われつつある子どもたちだからこそ、実際に草花を見て触れ、実体験を通して四季の変化を感じられるよう保育に携わっていきたいと強く感じました。

その他にも、講師の先生からどの保護者の方とも万遍なく話ができているかり

ストを作ってチェックすることや、保護者の方に子どもの様子を伝えるだけでなく、髪を切ったなどの保護者の変化といった「＋α」の話を加え信頼関係を築いていくのが望ましいなど、実践しようと思うたくさんのお話を聞かせていただき、自身の保育を省み改善する契機を与えていただきました。

たくさんの学び・気づきを与えてくださった事に感謝し、教育委員会の先生をはじめ、研修でご指導下さった講師の先生方、山の家の方々へ心よりお礼申し上げます。

美晴幼稚園

鈴木　悠平

今年の四月より、夢であった幼稚園教諭として働き、研修に出させて頂きましたが、同じ一年目が集まり三日間を共に過ごした事で、様々な事を学ぶ事ができました。

新規採用者研修では、様々な事を学びましたが、中でも印象に残っているのは、札私幼の先生方から頂いたお話です。その中で「プロ意識を持って仕事をしてください」という話をして下さった先生がいました。それは、一年目・五年目・十年目という保育の経験年数関係なく、この仕事のプロであるという意識を持って仕事に臨むということでした。保育者から見れば一年目の先生であっても、保護者や子どもから見れば、経験年数は関係なく一年目も十年目も同じ「先生」であるということを再認識でき、気持ちが引き締まり、仕事に対する責任感を強く持てるようになりました。

他には、「プラスアルファの関わりが大切」という話も印象に残っています。保護者と話をする時、子どもに関することだけの会話をするのではなく、例えば、「お母さん髪切りました？」などの保護者に対しての言葉も交えていくことで、お母さんが「この先生は話しやすい！」と思えるような関係作りをしていくと良いという話が参考になりました。この話を聞いた時、自分は今まで子どもの話ししかしていなかったことに気付きました。子どもの様子を伝えることが第一ですが、時々プラスアルファの関わりをしていくことで、さらに強い信頼関係を築くことができるのだと考えました。

三日間の宿泊研修では、自然の中で行った講義もありましたが、班ごとに分かれ、自然物を使いテーマに沿った作品を作るという内容でした。チームワークとアイディアが重要な取り組みになってきますので、各班の発表がどんなものになるのかとても楽しみでした。班では、話し合いの段階から様々な意見が出てきましたが、ただ肯定するだけでなく、各自しっかりとした考えをもち賛成したり、時には否定したり、良いものを生み出そうとみんなで考えていきました。そして出来上がった作品は、探索中に捕まえたクワガタ虫の家でした。拾ってきた枝を麻ひもで結び、葉っぱのカーテンをボンドで貼り、枝で作った鳥なども作りました。

この研修では、子ども達と取り組みたいと思えるようなアイディアを沢山得る事ができ刺激をうけましたので、この経験を自園でも活かしていきます。

研修中は班での活動が多く活動の内容も班で取り組むことがほとんどでしたが、自分にはない様々な考えを聞くことができたり、相手のことを考えてどのような行動に移すと良いかを考えたり、先陣を切って行動する人を見て参考にしたりと仲間から沢山のこと学びました。

この研修で学んだ、プロ意識・プラスアルファの関わり・保育を行っていく上での様々なアイディア・すぐに気付き行動する事の大切さなど書ききれないほどありますが、沢山のことを自分のものにして吸収し、保育に活かしていきます。

女性がほとんどのこの職業で、数は少ないですが男性の保育者とも出会うことができ、仕事の悩みだけではなく様々な話をし、仲良くなり絆が深まりました。この素敵な仲間に出会えたことが大きな収穫です。これまで働いてきて、上手くいかず悩むことが沢山あり仲間に相談した所、皆も同じようなことで悩んでいました。自分だけではなく１５０名近い１年目の同期が、同じようなことで悩んでいると気づけた時、「自分だけじゃないから頑張ろう」という気持ちを持つことができました。

これからは、プロ意識やプラスアルファの関わりなどを意識し、仲間がいるという心強い気持ちを持ち、保育にあたっていきます。

そうせい幼稚園

新堀　あかね

今年の夏に参加させていただいた札幌市新規教員採用者研修は、日々の保育とはまた違った視点で様々なことについて感じ、学ぶことの出来る実りの多い研修となりました。

まず、１日目に行われました体験発表では、２年目の先輩からの生の声を聞くことができ、とても刺激になりました。社会人として働き始め、不安や戸惑いも多かった１学期。２年目の先生方も昨年のこの時期には同じ気持ちだったということを知り、ほっとする自分がいました。また、私達からの「こんな時はどのように対応していますか？」というような質問にも体験談を交えながら１つ１つ親身に答えてくださりました。そんなおふたりの先生のお話を聞き、色々な対応の仕方があるのだと参考になりましたし、私自信もこれからもっともっとたくさんのことを先輩方から吸収し、自分の保育のやり方を見つけていかなくてはいけないとも感じました。

そして、元アナウンサーの石橋宜子さんが行ってくださりました“対応マナー”の講義も非常に興味深く、貴重なお話でした。接遇マナーとは「お客様に満足して目的を果たしてもらうこと」だとおっしゃっていましたが、私達保育者もこれと似たような部分はあるのではないかと

感じました。「この幼稚園の先生の対応は素敵だな・・・」「この幼稚園に入園させて良かったな・・・」と思って頂くためには日々の小さな心遣いや相手の方への丁寧な対応を心がけなくてはいけないのだと思います。また、来客対応・電話対応・言葉遣いなど基本的なマナーについても教えて頂くことができ、勉強になることばかりでした。

　また、野外での自然散策や自然物を使っての製作では、たくさんの植物や昆虫と触れ合うことができ気持ちもリフレッシュされましたし、子どもに戻ったかのように思いっきり楽しむことができました。自然散策で拾った葉っぱや木の枝、木の実を使っての製作では「あれも作りたい！」「こんなものも出来た！」と次々に色んな作品ができました。作品を班ごとに発表していくことで、たくさんの驚きや発見にも繋がりました。この活動を通して、子ども達にも一緒に楽しみながら自然の素敵なところをたくさん伝えていける保育者になりたいなと改めて感じました。

　同じ1年目として頑張るたくさんの仲間にも出会う事が出来ました。空いた時間には保育の悩みや不安、子どもの嬉しい成長などたくさんのことを語り合いました。同じ立場だからこそわかりあえることも多く、いつまでも話していられるくらいでした。同じ班になった仲間とは、今でも時々連絡を取り合っています。研修を通して素敵な仲間にも出会うことができ、とても感謝しています。２泊３日の宿泊研修では、ここに書ききれないくらいのたくさんのことを感じ、学ぶことが出来ました。これからも日々学ぶ姿勢を大切に、一歩一歩成長していきたいと思います。そして、いつか先輩方のように学んだことを後輩に伝えていけるようになりたいと思います。

星の子幼稚園

宗　真奈美

　四月から幼稚園に勤め始め、あっという間に過ぎた一学期でした。全てのことが初めてで、不安や戸惑いも多く、緊張している毎日でした。今回の宿泊研修では、一学期を振り返りながら、たくさんのことを学ぶことができました。また、社会人としての自覚や教師の心構えなど、自分に欠けている部分をたくさん気付かせて頂きました。

　対応マナー講義では、電話のマナーや社会人としての正しい言葉遣い、話し方など保護者の方と関わっていく上で大切なことをたくさん学ばせて頂きました。また、言葉の発音やお辞儀の練習を通して、自分自身を見つめ直すことが出来ました。講義の中で、良い印象を持ってもらうことがスムーズなコミュニケーションの第一歩であるというお話がありました。相手に良い印象を持ってもらうには、最初の明るさや清潔感に加え、最後に相手の気持ちが温まるような一言を添えることが大切であるということを、この講義を通して学びました。保護者の方にその日の子ども達の様子を伝えることや、「明日も元気に来てくださいね。」などと言葉を掛けることは、あたりまえのことのように思えますが、このような関わりこそが、信頼関係の基礎になっていくと改めて感じました。

　自然観察では、実際に滝野の自然を散策し、五感を使って様々なことを感じ、学びました。散策中は虫や綺麗な花をみつけ、班全員で喜んだり、様々な色の葉や木の実を集めたり、童心に帰ったり、楽しみました。また、足を止め、立ち止まって見ると、風の心地よさや木漏れ日、木陰の涼しさ、鳥や虫の声などを、聞いたり、感じたりすることができました。このような体験を子ども達と一緒にしたいと思ったのと同時に、子ども達であれば、五感を活かし、更にたくさんのことを感じたり、発見したり出来るだろうと思いました。そのような子ども達の気付きや発見、疑問などを発展させるためにも、私達は、多くの知識をもたなければいけないと感じました。その日の午後に行われた、自然物を使用した班毎の製作では、班毎に様々な工夫がされており、考え方が広がりました。このような制作からも、自然の楽しさを伝えて行きたいと思いました。

　研修期間中、班活動が多く取り入れられており、そこから学ぶこともたくさんありました。研修中の約束事や決められた時間の中での班活動を通して、社会人としての自覚やマナーを再認識することが出来ました。一日目は、お互いに遠慮がちでしたが、班での話し合いをとおして、自分一人では思いつかないようなアイディアや考えを知ることが出来、視野が広がりました。最初は不安だった初対面の人との集団生活でしたが、それぞれが一学期に経験してきたことや悩みを話し合う中で自然と打ち解け、班全体交流に向けての練習などを通して更に仲を深め、三日目の研修を終えるころには、大切な仲間となりました。

　今回の研修を通して学んだこと、経験したことを今後の保育に活かせるよう、日々努力していきたいと思います。

　今回の研修で、ご指導くださった諸先生方、本当にありがとうございました。

政令指定都市私立幼稚園団体協議会 第１１回　次世代研修会

政令指定都市私立幼稚園団体協議会第１１回次世代研修会が８月２０日に京都市で行われました。札私幼より参加しました。あいの里大藤幼稚園　副園長　大谷壮史　先生に研修会を終えての感想をご寄稿いただきましたので、掲載させていただきます。

あいの里大藤幼稚園　副園長　大谷壮史

今年の札幌の残暑は大変厳しいものでしたが、それをさらに上回る暑さの京都にて、８月２０日、政令指定都市私立幼稚園団体協議会第二回次世代研修会がありました。賑わう四条烏丸近辺からタクシーに乗り、会場に辿り着くまでのたった数分間でしたが、街中とは言えども京都の情緒あふれる風景を目の当たりにし、今回の大会が京都だったこと、そして札幌の代表として私を選出して頂いたことに、感謝を感じたのは言うまでもありません。

さて、今回の大会主題『はんなりと京都で学ぼう』の「はんなり」という言葉をご存知でしょうか。京都の園長先生にお聞きすると、「はんなりはねぇ、上品というか、華やかというか、褒め称える言葉ですね。」と、なんとも言えない雰囲気を表すのに使われる言葉だそうです。

１日目は京都市長門川大作氏による『市長・次世代会議』でした。司会の紹介で市長は着物姿で登場し、颯爽と壇上に向かうその姿はまさに「はんなり」。元京都市教育長だった門川氏は、教育にかける思いはどの市長よりも熱く、様々な形で幼児教育を推進する補助金制度の充実を図ってきました。司会担当だった京都の園長先生が、「市長はねぇ、お酒の席でも僕らと同じお皿から枝豆を手に取って食べるんですよ」と、京都の行政と教育現場に垣根はないという何とも絶妙な表現でした。教育以外にも、京都の景観を壊さないような建築基準（高層建築物の禁止、特定の地区において歴史ある建築工法を用いる等）を設けたり、またオリックスによる京都水族館開園においては京都大学との連携を義務付け、ただのアミューズメントパークではなく子どもが生物の生命と生態を感じられる学術的な見方ができる施設をコンセプトとすることを条件として合弁するなど、町興しにも力を注いでいるようです。（翌日、個人的に入館したが、大混雑でした。）

２日目は創建７５０年の大本山東福寺にて、住職でもあり境内にある慧日幼稚園園長の杉井玄慎氏による『坐禅と法話』でした。坐禅は自我を極力排除（無の境地）するという精神性を持ち、無になれないとき（邪念が心の中に表れたとき）に自ら直日（じきじつ：坐禅中の禅堂内を巡回し、修行者の坐禅を点検する者）に警策（けいさく：肩を叩く行為）を申し入れます。私も警策を頂きましたが、ズシンと肩に重みが走った瞬間、頭がすっきりとし、また無の境地へ入ることができました。坐禅はいつでもどこでもでき、特に眠る前には脳と心を休め、深い眠りに入ることができるようです。子どもが保育で「静と動」が必要なように、私たちにも仕事の精進には効果的かもしれませんね。

短い期間ではありましたが、有意義な交流と学びの場であり、また京都の方々が自分たちの故郷を愛する気持ちが強く伝わってきました。それは、歴史ある土地に生まれ育った誇りである共に、子どもから大人まで充実して生きることができる社会を目指しているからでしょう。札幌も歴史は浅かれど、素晴らしい町です。教育を根幹に、子どから大人まで札幌を愛する町を目指していきましょう！

園アラカルト

毎号掲載しております。園紹介のコーナー「園アラカルト」を2園からご寄稿頂きましたので、ご紹介させていただきます。（順不同）

新さっぽろ幼稚園

園長　吉田深雪

「体・知・心」の教育活動

本園は幼児教育５３年の学校法人大藤学園６番目の幼稚園として昭和６３年４月に開園し今年で２５年目を迎えました。大藤学園の基本理念は「未来を創る子どもたちへ人間としての基礎づくり」。教育目標は建学以来変わることなく「体・知・心」にあり、人間が人間として生きるために必要な基礎作りを意味し、同時に子どもたちが「体・知・心」の調和のとれた発達によって、将来、立派な社会人として成長してほしいという願いがこめられています。「体」―健康で明るく、たくましい子どもを育てる。「知」―創造性豊かで、やる気のある子どもに育てる。「心」―情操豊かで、心優しい子に育てる。大藤学園ではマラソン・サッカー・英語あそびを取り入れていますが、本園の特色として開園以来ジャズダンスを行なっています。当時ジャズダンスが盛んであったことから、子どもたちのリズム感と体力を養うために導入を考え、「ドラえもん」の曲に合わせて踊ったのが始まりです。週一度の短い時間ではありますが、年少児からの積み重ねにより、年長児になると５分程度の洋楽の曲に合わせて軽やかなステップで楽しく踊っています。大人から見ると少し難しいのではと思われる振り付けも、リズムにのって楽しく体を動かす子どもたちの表情は、とても生き生きとしています。カリキュラムは毎年自己点検・自己評価をもとに子どもの実態に即した内容を考え見直し、近年は食育にも積極的に取り組んでいます。３年間の食育カリキュラムをたて、「食事の楽しさや大切さを知り、健康な体を作る」ことを目標としています。園庭の小さな畑やプランター栽培で野菜などを育て収穫し、友だちと一緒に食べる事で苦手な野菜が食べられるようになり、食事が楽しくなってきました。

また、地域との交流も大切にしています。全園児がクラスごとに老人保健施設などを訪問し、お年寄りと一緒に歌や手遊びを楽しみ、手作りのペンダント・カードをプレゼントしています。この交流は１０年近く続き、毎年喜ばれています。今年は年長組が近隣の小学生と一緒に公園清掃を行なう活動もあり、地域・異年齢と触れ合うことは子どもたちにとって良い経験となっています。

認定こども園への移行

平成２５年４月に新さっぽろ保育園を開園し、本園は認定こども園へと移行します。これにより、幼稚園と保育園の枠を超えて乳幼児から幼児への教育の連続性が実現します。本園の認定こども園は、保育園が離れているため施設が一体型ではありません。３歳以上の保育園児は教育活動の時間は幼稚園へ移動することになります。認定こども園の充実には様々な課題がありますが、保育に欠ける・欠けないにかかわらず、すべての子どもが良い教育を受けられ、充実した保育環境を整えられるように職員一同気持ちを新たに頑張ろうと思います。そして、どんな時も子どもに寄り添い、成長を願い、保育者と保護者が手を取り合い協力しあえる関係を築きあげていきたいものです。

太陽こころ幼稚園

園長　近藤　智子

太陽こころ幼稚園は、函館に本部を置く学校法人太陽学院の３つ目の幼稚園として、平成２３年、北区屯田の地に開園いたしました。

当学院の理念、「慈愛と感謝」の教えを目の前にいるこの小さな子どもたちに手渡すことが我々の使命と捉え、『こころ』を育てることを教育のテーマに掲げ、「大好き」と「ありがとう」の気持ちを育むことに力を注いでおります。子ども達が、自分は「愛されている・大切にされている」という思いを心から実感し、自分の存在価値をしっかりと見いだせるような教育を展開しています。

現在は物資・情報面とも豊かな時代となり、欲しいと思えばさほど苦労もなく手に入る便利な世の中です。確かに素晴らしい面もありますが、反面、人と人との関わりが少なく無機質な空間が増えたようにも感じます。また、日本人が古くから重んじてきたこと（例えば礼節であったりしつけであったり）が失われつつあることにも悲しさを覚えます。

だからこそ、心で感じ合い、心で伝えあい、心を震わせあうことの素晴らしさを子どもたちに伝え、私達教職員もまた、大人が忘れかけていたような純粋な心を子ども達から学び、共に成長している毎日です。

環境においては、自分で考え、生み出すことができるようにと「あえて不足なものをつくる」ということを意識し取り組んでいます。

園舎は平屋建てですが、明るい光の差し込む解放感いっぱいの空間にいたした

く５メートルの天井高にいたしました。壁のない中央に位置するオープンな職員室も当園の特色です。子ども達にとっては安心できるあたたかい居場所となっています。

また、園内随所に丸型や曲線のデザインを盛り込みました。これは、子どもたちの心を落ち着かせること、友だちとの輪を大切にすることを意識してこだわったひとつです。

昼食は園内厨房での手作り給食です。栄養面はもちろんですが温かい食事をマナーよく食器をつかっていただく経験は食べ物に感謝できる心も育みます。一歩外に出ると芝生とグランドの広い園庭。そこには、築山やトンネルもあり、階段を上ると屋上。楽しさいっぱいの空間がひろがっています。

平成２４年８月に、０歳～２歳までの認可保育園を併設し、認定こども園となりました。０歳児から就学まで一貫した“心の教育”ができる喜びをかみしめています。

知識や技能は、後からいくらでも取り戻すことはできますが、心を育成するのはこの大事な幼児期でしか培うことができないものと思っています。

園生活をとおし、子どもたちは着実に、やさしく、強く、たくましく、しなやかに育っていることを実感しております。

「星の王子様」の一説に「この世で本当に大切なことは目には見えないもの…」とあります。

まさに、心の教育です。目には見えませんが、この子たちが１０年後、２０年後には立派な大人になっていると確信し、その姿を想像しながら楽しんでいます。

まもなく開園３年目を迎えます。保護者の方々はじめ、地域の皆様、諸先輩方からの温かいご支援に感謝の気持ちを忘れることなく、一年一年歴史を積み重ねて参りたいと決意を新たにしております。

行政とのかかわりについて

過日に行われました。豊平区・清田区合同園長会にて、前田会長と丸谷副会長による行政との関わりについて対談形式でお話いただきましたので、一部掲載させていただきます。

「新体制への移行について」

平成２４年度より札幌市教育委員会から札幌市こども未来局へ業務移管が行われました。例年話し合いを繰り返してきた教育委員会からの移管は、執行部にとっても大きな影響がありました。関係づくりを一からはじめ、今までの話し合いの内容とこれからの見通しを同時進行で行う事となりました。こども未来局は「保育所」の実態しか知らなく幼稚園の実態を深く丁寧に説明し進めてきました。補助制度については、主に・預り保育室・幼稚園保育室の補助制度について強く要望を伝えてきました。

「平成２５年度予算要望について」

・特別支援教育事業

幼稚園現場での実態から加配の必要性を伝え、今年度３名という制限の撤廃を要望。撤廃が無理な場合は最低５名に増やしてもらえるよう要望。

・教材教具補助金事業

全園に該当する補助金なので、現状維持以上を強く要望しているが、目的の根拠、必要性の中身の薄い事業の為、現状維持の確保で落ち着く事が予想される。

・私立幼稚園の預り保育室運営事業

単価増と登録園数増を要望している。すでに札幌市の私立幼稚園１３１園で実施している預り保育実施の評価を求めすすめているが、現時点では単価増は相当困難であることが予想される。登録園数の増は、可能であると思うが総額を登録園数で割る仕組みの為、単価を減額されることが予想される。

・幼稚園の保育室運営事業

良質な幼児教育ができる幼稚園が保育室運営事業に適していると主張し、単価増（１，２歳児、最低３万円）を要望。現状として単価増は、見込めないが幼稚園空き教室を利用して保育室を行う場合は、認可外届はいらなく札幌市の監査はないが、現状の道監査が対象となる。年度単位の扱いではなく、誕生日を迎えた日を基準とするので取り扱いに注意が必要である。

・子ども・子育て関連３法の成立をうけて幼稚園が進むべき方向性について

①幼稚園連携認定こども園

②認定こども園幼稚園型

③施設型給付を受ける幼稚園

④施設型給付を受けない幼稚園

この４つの選択肢について

国としては、施設型給付に一本化を図っている。私学助成よりも施設型給付を選択するようなインセンティブをつけてくる事が予想される。現状維持を望む場合は、④施設型給付を受けない幼稚園　を選択し、現状の私学助成を受けることとなるが、私学助成が担保される保証はない。施設型給付を受ける場合、保育園は、

保育料以外は、徴収してはいけない。また、応諾義務が生じる。この場合の応諾義務の内容については、今後検討されるであろう。定員については、札幌市が精査し割り振る可能性が予想される。定員外実員について単価補助されることが予想される。特別支援教育補助事業については、今のところ私学助成として継続する見込みである。預り保育補助事業については、重複しての補助を受ける事ができないので、一方を選択する仕組みとなるであろう。認定こども園の場合は、社会福祉法人と学校法人の二分化している施設は、どちらかを解散しなければならない。会計が一本化となり、今までのように保育所園長、幼稚園園長と分けるのではなく、一人の施設長となる。この場合、保育園園長が幼稚園の実態を幼稚園園長が保育園の実態をと未経験部分についての実態把握不足が生じる事が危惧される。

研修会終盤、「こういった変革期ではあるが、札私幼の各会員園が少しでも納得してもらえる制度の確保に今まで以上に努力します。」と力強い言葉をいただきました。札私幼広報誌では、今後も新制度等について少しでも情報を発信していきたいと思っております。

（１２月１４日現在対談より）

連合会日誌

８月２８日(火)　第六回総務委員会
　　第五回理事会
９月１０日(月)　予算事務折衝(子ども未来局)
９月１２日(水)　札私幼総務委員と私立幼稚園振興議員連盟との予算勉強会
１０月４日(木)　第七回総務委員会
　　第六回理事会
１１日(木)　ＰＴＡ連合会全道大会
　　（市民ホール）に前田会長他参加
１７日(水)　札私幼総務委員と市議会
　　民主党会派との予算勉強会
１９日(金)　設置者園長研修会
　　（かでる２．７）
１９日(金)～２０日(土)札私幼教育研究大会
　　（市民ホール他）
２６日(金)　政令都市会長運営委員
　　合同会議（名古屋）
１１月６日(火)　予算事務折衝(子ども未来局)
９日(金)　札幌市へ平成２５年度予算要望
　　（札幌市役所）
１４日(水)　予算事務折衝(子ども未来局)
２０日(火)　第八回総務委員会
１２月１８日(火)　養成校懇談会
　　（札幌ガーデンパレス）
　　第九回総務委員会
　　第七回理事会

平成２５年
１月２２日(火)　永年勤続表彰
・新年交礼会(札幌ガーデンパレス)
　　代表者会議
　　総務委員会

編集後記

私は、数年前に研究委員会研究推進部会という場で初めて札私幼のお仕事に参加させていただきました。それまでは、札私幼の役員や各委員の皆様がどのようなお仕事をされているのかをよく解っていなく、知れば知るほど会員園の皆様に御納得いただける組織作りに邁進されているのがよく解りました。会としての事業運営、札幌市への予算陳情、研究・研修活動、各セクションがなんとか現状維持以上の事を成しえたいと貴重な時間をさき、御尽力いただいています。教員の育成、補助金の確保など現在に至るまで歴代の会運営に携わられた皆様のおかげで成り立っている事がよくわかりました。そして強く感じましたことは、会員の皆様各園が当事者意識をもち、積極的に会に関わっていただくことで今後の札私幼を活性化させるのだと思っております。こういった意味でも札私幼の活動報告をこの広報誌「札私幼」を通じて皆様にお伝えしていくことが私達、広報委員の重要な職責の一つであるという認識を持ち任期を全うさせていただきたく思っております。園アラカルト等、ご寄稿依頼をお願いすることがあると思いますが、ご理解とご協力を賜りご支援いただけますよう宜しくお願いいたします。

広報副委員長　塚本　憲昌